

IR day2024 セッション3
「IT戦略(エンタープライズアーキテクチャ)」

NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社
2024年9月13日

経営戦略に伴走するIT戦略

基本方針

- ・ IT戦略は、100周年に向けて進む長期ビジョンを実現するため経営戦略と同じ目線で実行
- ・ マイルストーンを設けて事業環境の変化に対応するためにローリングしつつ計画を実行する。

経営目線の課題



サステナビリティ経営
グローバル市場での成長加速
日本事業の再構築

業務を支えるIT



ESG関連機能を急速に拡充中
急務となっているフォワーディングシステム
各国・各社にサイロ化したシステム



IT戦略の統合

経営・業務・ITの課題
を踏まえ将来像を設計

2024年9月の現在地



業務目線の戦略

短期・長期の目線で
優先課題を設定し、
投資・リソースの集中



2028年中計と一致

中計のゴールに向かい
実現すべき着実に完成

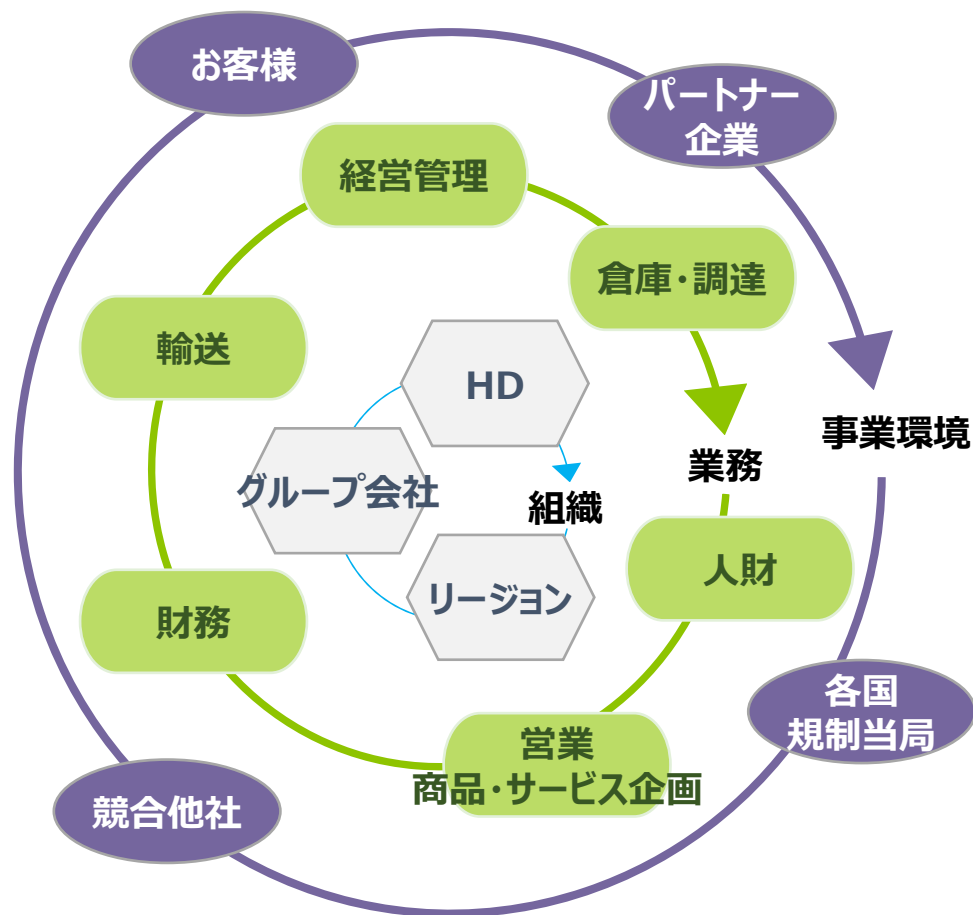


2037年 100周年には
グローバル市場で存在感を持
つロジスティクスカンパニーへ

ITを取り巻く環境と課題

ITを取り巻く環境

- ・ 自社、外部共に事業環境は複雑化し、必須対応事項が加速度的に増加している。
- ・ ITの整備が後手に回ると人財確保・最新化への追従で大きく溝を開けられる。



環境変化とITの潮流

事業リスク・経営ビジョンの進化に対応

- ・ 事業環境・競争環境の変化は激しく、事業環境に適合するために柔軟なIT基盤が必要
- ・ ESGをはじめとしたマテリアリティの達成に向けて、グループ一丸となったガバナンスが必要

ITの重要性の加速、デジタル技術の進展

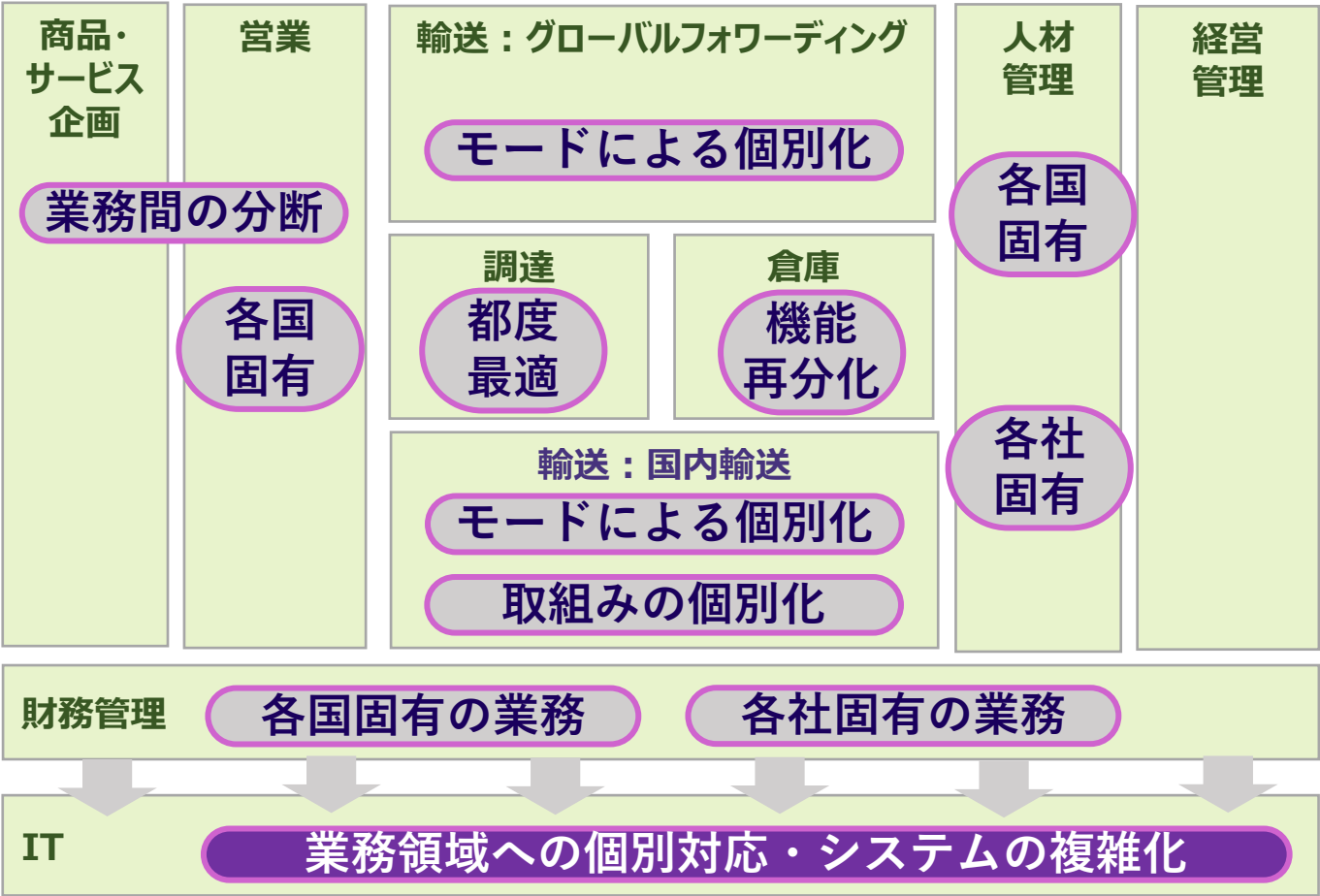
- ・ ソフトウェアのライフサイクルの短縮、巨大ベンダーの刷新ニーズにより慢性的な人手不足
- ・ 生成AI・センサー技術の隆盛による新たな技術への適用が急務

これまでのNXのITは業務機能に紐づく形で配備されてきた (AsIs)

現状のIT

- ・ NXにおけるIT整備は業務機能に特化してきたため非常に複雑になっている。
- ・ 業務要望にきめ細かく対応できている一方で、経営戦略に追随する俊敏性が弱点。

NXにおける業務別のシステム配置



コスト削減の課題

- ・ **サイロ化**：NXのシステムは業務個別化で進んできたため、**業務機能・システム機能が標準化**されていない
- ・ **システムの分散・固有化**：サイロ化に伴い、適用技術や対応業務スコープなどが揃っておらず、結果として**類似システムが散見**される

売上貢献の課題

- ・ **End To End のサービス**：サービス品質の向上、速やかな製品投入を行うためのシンプルな**システム連携の実現**が急務
- ・ **トップラインを伸ばす施策**：重点顧客・重点事業を推進するために、グループ・グローバルの**業務基盤の整備**が急務

エンタープライズアーキテクチャ（以下EA）は全体最適と戦略的個別最適を両立

NXのEA

- 競争性の強味を残しつつ、全体を俯瞰した視野で最適化する
- トップラインを伸ばす競争優位性は差別化要因として柔軟さを確保する。
- コスト削減にむけ、経営資源の最適配置に向けて標準化・集約化を進める。

トップラインを
伸ばす
競争優位性の確保

コスト削減を
狙う
標準化・集約化

ビジネス競争力重視
戦略的個別最適

全体整合重視
全体最適

- NXの営業力を生かす セールスイネーブルメント
- 製品・サービスラインの拡充 倉庫システムの差別化
- グローバルフォワーディングの各国展開
- モーダルコンビネーションの実現

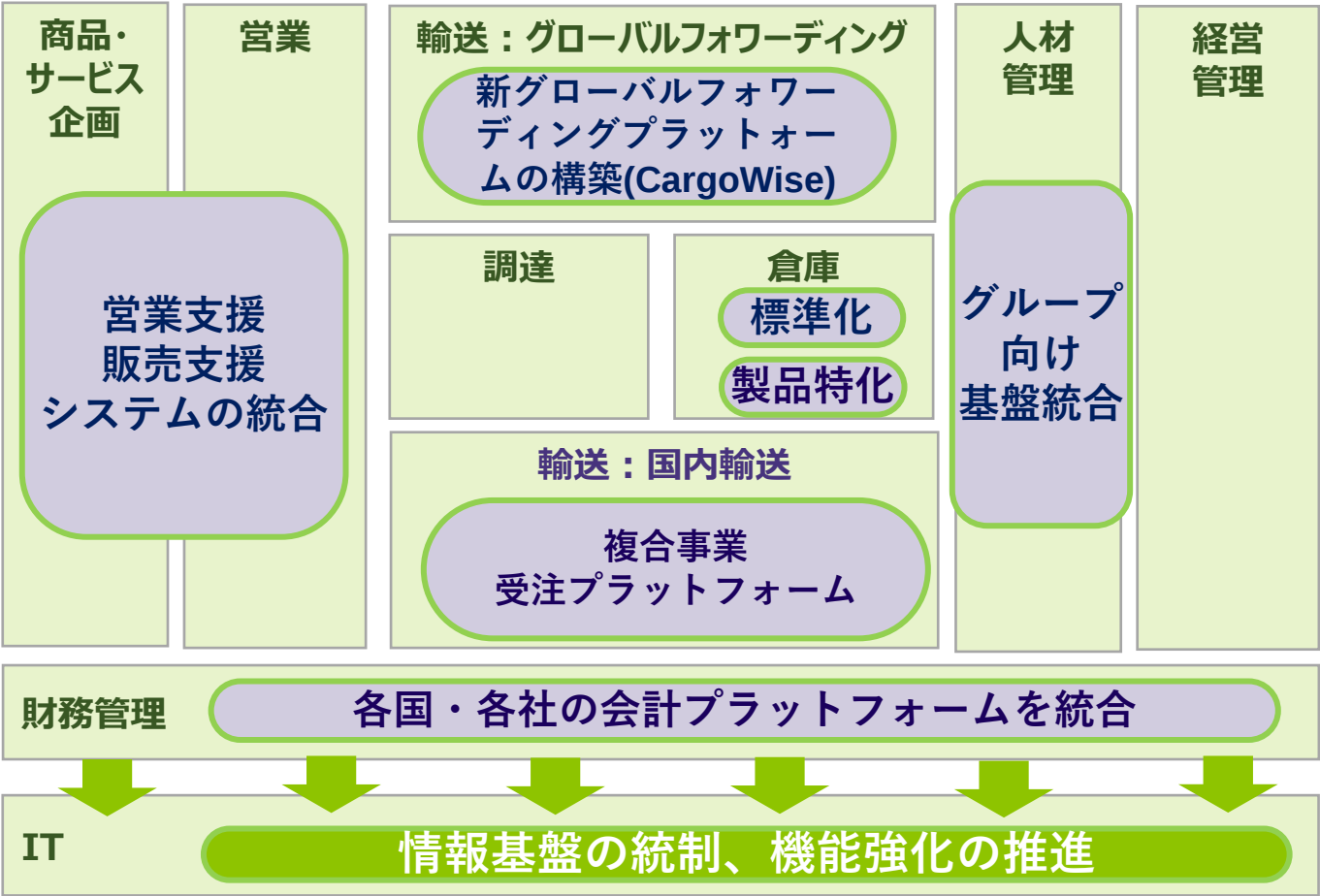
- 堅牢・統合された会計システム
- 類似機能の集約を進めることで保有IT資産の最適化
- サステナビリティ経営に必要な情報集約
- 導入IT製品・システムの統合/ノウハウ蓄積
- ガバナンスの実践（グループ・リージョンの取組み）

業務の将来像を見据え、着工中の取組みを滞りなく進める (ToBe)

IT戦略の要諦

- ・ 事業環境に速やかに対応するため徹底的なプラットフォーム化・業務標準化に着手
- ・ 売上拡大を支えるITであり続けるために業務施策の早期実現を目指す

NXにおける業務別のシステム配置



End To End サービスの拡大に向けて

- ・ 業務基盤の統一による体系的な営業戦略の実現
- ・ 新グローバルフォワーディングシステム導入を通じたオペレーションの高度化
- ・ 国内輸送の受注プラットフォーム化で、販売力・オペレーション・収益性の向上
- ・ 倉庫業務における製品ラインの拡充と標準化によるコスト削減

業務標準化・グループシナジー

- ・ 業務集約と統合的な会計基盤の展開
- ・ グループを通じた人財基盤を導入し、タレント発掘の促進

データの利活用がアプリケーションの価値を最大化する

データの整備方針

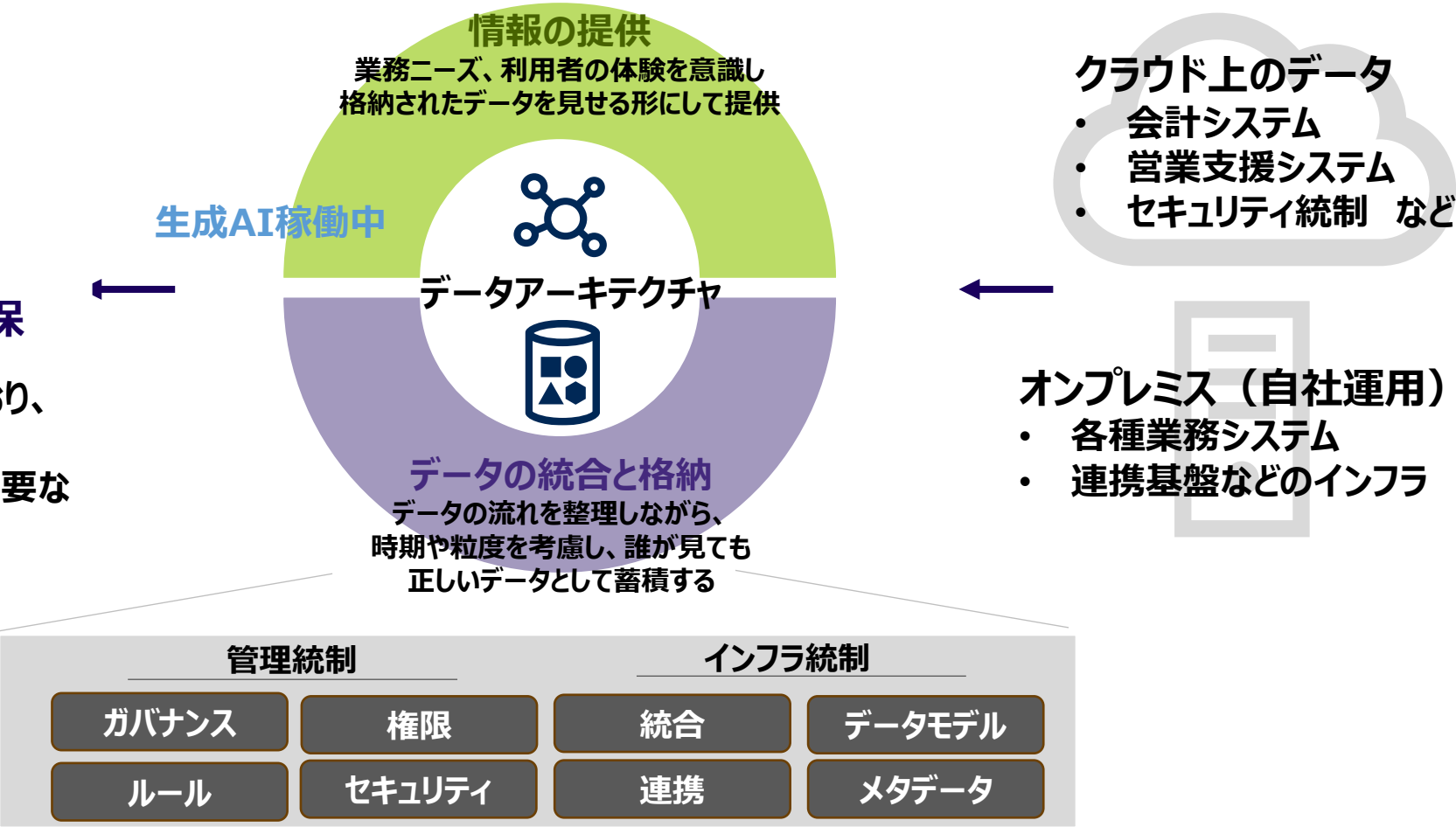
- ・グローバル共通のデータ利活用プラットフォームとして、NX データステーションを整備している。
- ・データアーキテクチャの活動により、データを統合し利活用範囲を広げることで先進技術を搭載するDXにつなげていく。

業務ニーズへの対応

- ・業務施策の実現
- ・分析ニーズに対応
- ・システム横断情報の提供

利用者の利便性の確保

- ・見るべき場所が決まっており、同じ情報が提供される
- ・適切な権限管理のもと必要な情報にアクセスが可能



EAによる計画統合と実践で業務・ITの最適化を推進する

EAで目指すもの

- コスト削減・利益貢献の循環をめざすITであるために、EAによる最適化を継続して回す。
- リーン化（無駄の排除）で余力の創出とシステム標準化を進め、攻めのITを速やかに実践する。

コスト削減

- **徹底的なプラットフォーム化**
 - ライセンスの統合による支出抑制
 - 機能集約最適配置によるIT資産の削減
- **システム刷新を契機としたプロセス見直し**
 - シェアードサービスの実現を支え業務集約に貢献
 - 業務標準化によるROIの追求

EAによる 計画統合と実践

輸送業務の売上拡大を後押し

- 業務基盤の統一と営業支援機能の強化
- 営業・輸送・倉庫のEnd To Endのサービス

M&Aを見据えた事業統合に対応

- グループシナジーはもとより、他社との連携も見据え、乗り入れ可能なIT

事業の拡大に寄与



本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。
また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、
その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告無しに変更されることがあります。
万一、この情報に基づいて、こうむったいかなる損害についても、
弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。